

第6回 平取ダム地域文化保全対策検討会 次第

日 時 平成20年3月15日(土)
午後2時～4時
場 所 沙流川歴史館 レクチャーホール

1. 開 会

2. 第5回平取ダム地域文化保全対策検討会議事録の確認 【資料-1】

3. 調査結果の報告

(1) 平取ダム地域文化調査業務の概要

4. 第5回検討会以降の関連事項の報告

(1) 平取ダム付替道路工事に係るカムイノミの実施について

(2) 平取ダム付替道路工事区間における植物移植の実施について

(3) 有用植物の保全対策に関わる勉強会のふりかえり 【資料-2】

5. 協 議

(1) 植物の保全対策に係る検討 【資料-3】

(2) 生活文化の保全対策に係る検討 【資料-4】

(3) 栽培実験について(案) 【資料-5】

6. そ の 他

7. 閉 会

第5回 平取ダム地域文化保全対策検討会

議 事 要 旨 (案)

日 時：平成19年11月27日(火)

場 所：ふれあいセンターびらとり

北海道開発局室蘭開発建設部

沙流川ダム建設事業所

第5回平取ダム地域文化保全対策検討会 議事要旨(案)

日 時： 平成19年11月27日(火) 15:00~17:00

場 所： ふれあいセンターびらとり(北海道沙流郡平取町本町)

出席者：

委員	辻 井 達 一	財団法人北海道環境財団理事長〔座長〕
	稲 原 敬 三	平取町議会議長
	木 幡 サチ子	北海道ウタリ協会平取支部/平取アイヌ文化保存会理事
	木 村 英 彦	社団法人北海道ウタリ協会平取支部副支部長
	桜 井 幹 也	平取町議会総務文教常任委員会委員長
	常 本 照 樹	北海道大学大学院法学研究科教授
	西 島 達 夫	社団法人北海道ウタリ協会平取支部副支部長

配布資料： ・第5回平取ダム地域文化保全対策検討会 会議次第
・資料-1 第4回平取ダム地域文化保全対策検討会 議事要旨(案)
・資料-2 調査班業務の概況-第5回検討会における報告
・資料-3 平取ダム付替道路工事区間における植物移植について
・資料-4の1 植物の保全対策について
・資料-4の2 植物保全対策検討フロー(案)
・資料-4の2(A)有用植物の重み付けを考える上でのチェックリスト
(木本類・草本類)
・資料-4の2(B)保全対策の検討・実施・管理へのフロー(案)
・資料-5 生活文化の保全対策について(案)
・資料-5の1 アイヌの人たちの農耕-「川洲畑」-について
・第5回平取ダム地域文化保全対策検討会 座席図

議 事： 1.開 会
2.第4回 平取ダム地域文化保全対策検討会 議事要旨(案) 【資料-1】
3.調査結果の報告 【資料-2】
(1)平取ダム地域文化調査業務の概況
・精神文化現地調査
・生物の生存環境調査
・生活文化現地調査
・アイヌ語地名保全対策実践
・栽培実証試験
4.第4回検討会以降の関連事項の報告
(1)平取ダム付替道路工事について
(2)平取ダム付替道路工事に係るカムイノミについて
(3)平取ダム付替道路工事区間における植物移植について 【資料-3】
5.協 議
(1)植物保全対策の検討(案) 【資料-4】
(2)生活文化の保全対策について(案) 【資料-5】
6.その他
7.閉 会

1. 開 会

*事務局

それでは定刻となりましたので、ただいまから「第5回平取ダム地域文化保全対策検討会」を開催いたします。議題に入るまでの間、司会を務めさせていただきます沙流川ダム建設事業所の三宅でございます。よろしくお願いいたします。

まず最初に会場の皆様にお願いがございます。携帯電話につきましては電源をお切りいただくか、マナーモードへの設定をよろしくお願いいたします。

あと本日、検討会委員の内、中道委員、斉藤委員、あとは川奈野委員、鍋澤委員につきましては、公務によりご欠席とのご連絡をいただいておりますのでご了承をお願いいたします。

それでは早速、議題に入りたいと思いますので、辻井座長に進行をお願いいたします。

*座長

皆さん、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。今日の第5回平取ダム地域文化保全対策検討会でございますけれども、最初に前回の第4回の議事要旨の確認を行います。それから続きまして、平取町調査班が実施した調査結果の報告を聞くことにいたします。その次に第4回検討会以降の関連事項についての報告がございます。その中身としては、一つ目は付替道路工事について、二つ目が付替道路工事着工に係るカムイノミについて、三つ目は付替道路工事区間の植物移植についての報告、ここまでが報告でして、それを聞いていただいてから協議に入ることになりますが、協議の方も幾つか項目に分かれていまして、一つ目が植物保全対策の検討案、二つ目が生活文化の保全対策について、これをそれぞれ事務局から説明をしてもらってから、協議をしていただくということになります。

では、一つ目の議題、今日のご欠席の方が少し多いのですけれども、まず第4回平取ダム地域文化保全対策検討会議事録、これは先にお目通しいただいているはずだと思いますけれども、その確認を事務局からお願いするということにいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

2. 第4回平取ダム地域文化保全対策議事要旨(案)の確認【資料-1】

*事務局より、資料-1「第4回平取ダム地域文化保全対策議事要旨(案)」について説明

*座長

ということで、先ほども申しましたけれどもお目通しいただいていると思いますが、さらにお気づきの点ございましたらば、ご指摘をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(委員 異議なし)

*座長

特にお声がないければ、これで宜しいということで確定しますが、宜しゅうございますか。ありがとうございました。それでは、議事要旨の案をとりまして、確定ということにいたします。

それでは次の、3、調査結果の報告ですが、これは平取町調査班から説明を順次お願いしたいと思います。宜しくどうぞお願いいたします。

3. 調査結果の報告

(1) 平取ダム地域文化調査業務の概況【資料 - 2】

*** 調査班作業主任 吉原主幹 (平取町文化財課) 調査班、各担当者より、資料 - 2 「調査班業務の概況 - 第5回検討会における報告」について説明**

*** 座長**

どうもありがとうございました。調査班の方々のご苦勞にお礼を申し上げます。そこで今の報告、全部で5つの項目に分かれていますけれども、これについてのご質問なりご意見なりありましたら承りますが、いかがでしょうか。

では、私から伺いたいのですけれども、二番目の生物の生存環境調査の説明では、ランコ(カツラ)とノヤ(ヨモギ)2つの説明をしていただいたわけですが、これは例としてということで、あと沢山あるということなんですね。同じような形でのデータがあると、お取りになったということですね。

*** 調査班作業主任**

今、座長がご指摘になったのは、この二つの図に関してですけれども、樹木と草本についてそれぞれ有用性の高いもの、30種類程度はそれぞれ分布図を作っております。

*** 座長**

同じような感じでデータがあるわけですね。

*** 調査班作業主任**

はい。同じようにしております。

*** 座長**

それからもう一つ、三番目の川洲畑、コボンチカルのデータについてなんですけれども、説明していただいた候補地のAとBというのが、私の頭にあった、想像していたというのでしょうか、川洲畑とは随分違って、これは両方とも牧草地に現在はなっている、非常に安定したところではないかと思うのです。つまり、私の頭の中にと言いますか、今までの知識では川の氾濫などで、土砂が溜まったりした洲のところにつくられたというふうに記憶と言いますか、教わっているものだから、これは随分安定している、毎年動いているところではないのではないだろうか。

*** 調査班作業指導員**

昔はそうであったと判断されるのですけれども、今はいろいろ河川改修等で、そういう川洲畑に適したような沖積土が堆積した肥沃な土地というのはほとんど見当たらないのです。また、そういうところ

はほとんど農地にされているという状態です。ですから、この他、この写真以外にヤナギ原とか、そういうところを何箇所か候補地はありますけれども、一番交通の便が良くて管理しやすいなというところを今は例として挙げております。その他にも4箇所か5箇所ほど良いところは確認しております。

*** 座長**

そうすると、これからはもう少し新しく洲ができて、それを使えそうだというのは、これは調査班作業指導員さんに伺うべきではないのかもしれないけれども、河川としては難しいということですか。

*** 調査班作業指導員**

調査の中では、以前そこで川洲畑を作っていたという場所もあったのですが、そこは既に水害で失われているとか、ご存じのように川は勝手に動いていますので、ただ、もしやるとしたら、こういう安定した場所になるのかなということも想像されます。

*** 調査班作業主任**

今のことについて補足なんですが、これはあとで協議課題にもなっているところかと思います。どうも取り組んでみまして、あといろいろ過去の情報とかを突き合わせますと、コポンチカルと言われていましたところは条件が良いものですから比較的早くに農地になってしまって、従って対策としましても、今の川の姿から推測する川の縁ということではどうもないのではないかという、どうもやっぱり農地として括られている河川敷地の外のエリアも考えざるを得ないのかと、これは私見ですが、それは、さきほど貝澤耕一指導員が、河川敷地の中に限定されるとちょっと収まりきらないところがあるというコメントいたしました、そういったことに繋がっております。

*** 座長**

ありがとうございました。私の気がついたことと言いますか、伺いたいのはそのことなんですけれども、他に何かございませんか。

それでは、今の報告については宜しゅうございますか。先ほど、アイヌ語地名保全対策実践の担当者の方が説明してくれましたけれども、このデータは細かいので、あと実際のデータはパソコンでそこをクリックすれば拡大して読むことができるとそういうことですね。

*** 調査班作業主任**

はい。そういうことです。

*** 座長**

わかりました。では、後でまた見せていただくということにして、今の報告は宜しゅうございますか。

(委員 意見なし)

*** 座長**

それでは、4番目になります。第4回検討会以降の関連事項の報告を聞きたいと思います。宜しくお願いいたします。

4. 第4回検討会以降の関連事項の報告

- (1) 平取ダム付替道路工事について【プロジェクター使用】
- (2) 取ダム付替道路工事に係るカムイノミについて【プロジェクター使用】
- (3) 平取ダム付替道路工事区間における植物移植について【資料 - 3】

*事務局より、(1) (2) 及び(3) 資料 - 3 「平取ダム付替道路工事区間における植物移植について」について説明

*座長

どうもありがとうございました。今の報告についてのご質問がございましたらどうぞ。宜しいですか。では、また後で全体の協議の時に気づきの点がありましたらご指摘ください。どうもありがとうございました。

それでは、今までのところで一通り報告が終わりましたので、協議の前に一休みということにしようと思います。10分休憩でよいですか。では4時15分に再開ということにいたしますのでお集まりください。

(10分間休憩)

*辻井座長

では、再開したいと思います。

協議事項に入りますけれども二つありまして、一つ目は植物の保全対策の検討(案)ということです。これは事務局からまず説明をしていただくということにいたします。よろしくどうぞ。

5. 協 議

(1) 植物保全対策の検討(案)【資料 - 4の1、4の2、4の2(A)、4の2(B)】

*事務局より、資料 - 4の1「植物保全対策について」、4の2「植物保全対策検討フロー(案)、4の2(A)「有用植物の重み付けを考える上でのチェックリスト(木本類)・(草本類)」、4の2(B)「保全対策の検討・実施・管理へのフロー(案)」について説明

*座長

今の説明についてのご質問なりご意見なりを伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

資料 - 4の2(A)ですが、「必要性」という部分でウタリ協会、企業組合と書いてあるのですが、特に食べたりするものについては、食文化部会とか、そういうのがかなり一生懸命やっているの、(平取アイヌ文化)保存会の話も聞いて、それも今日の資料の中に入れての方が良いのではないかと思うのですが。

*** 座長**

それは結構だと思います。ここに書いてあるのは、一番頭のところにあるように、今までのアイヌ文化環境保全対策調査、前に出した報告書、その中にあったものをまとめたということです。ですから今のご意見で保存会ですか。その意見なり、あるいはデータでもあったら、それを含めてというのは十分に考えなければいけないのではないかと私も思います。

アイヌ語教室でもやっているのでは。

一緒にやっているのではないか。

はいそうです。

*** 座長**

というのは私もこの資料を見て、ここの必要性のところを書いてあるのがほとんど工芸的なものなんです。食用、どういうふうに使っていたか、料理に使っていたかが、すっぱり抜けているんです。だから 委員もそういうことをおっしゃっているのではないかと思うんですけど。

かなりいろいろと一生懸命やっていますので。

*** 座長**

ここは全部見ると、ほとんど木工芸に関する事しか出ていないんですね。ありがとうございます。他にいかがでしょう。先ほど 委員、休憩の時にご意見をおっしゃっていましたが、最後の栽培実証試験のところに関連することだと思いますけれども。

私の方から一つ質問させていただきます。先ほどの調査班の報告をふまえながら、今、座長が言われたように、この育成適地の部分でどこに保全するか、あるいはどこで何を栽培するか、川洲畑の問題でございますが、調査班の報告だと、植えた時期が悪かったのか、発芽もしなかった、あるいは実も付かなかったという説明がありました。そうであれば、この部分にもっと専門的な知識を持った人に入っていただくという方法はとれないものか。もっと有効的な栽培、あるいは移植に関わる場所の、もっと専門的な知識の人がこの調査班の中に入るとか、指導を受けるとか、そういう方法はとれないものかと思っています。

*** 座長**

それは十分にとれるのではないかと思います。この栽培実験については、先ほど説明してもらった「調査班業務の概況」の「3 生活文化現地調査」の中のことだと思いますけれども。

大変前後して申し訳ございませんが。

*** 座長**

育苗畑 2 というところが、6 種類の種を蒔いて 4 種類しか穫れなかったということなんですけれども。

いわゆる、どこで保全して、どうしたら一番有効的なのかということが、もっと専門家の知識を入れることによって、もっと有効に無駄がない作業になるのではないかなと。調査班はかなり苦労されているのに、それが報われないという部分が、若干そういう部分の知識が不足していたのかなという感じを受けましたので、あえてここに専門的な知恵をお借りするというものはないものかということです。

*** 調査班作業主任**

言われるような、観点での見直しは必要かと思います。そうしたいとも思います。それで他の作業との関係で、やや着手が遅れたりとか、候補地を決めること自体に手間取ったような事情がありましたけれども、あとは元々、種を植えた後はあまり見には行かないという粗放的なやり方と聞いておりましたので、ややこちらも安易に考えていたところがあるのかなと私は反省をしております。安易な簡単なことではないということは今回分かりましたので、ご指摘のような、もう少ししっかり系統的な試験となるような取り組みができれば良いと思っております。

*** 座長**

ということです。宜しゅうございますか。こういう有用植物と言っても、(本来は)野生のものを採取して済むというものだったら、それを栽培するというのは、なかなかデータがなかったり、種を蒔くとか、あるいは苗を採ってきて植えて育てるというようなことを全くやったことのない植物の種類というのは随分あると思います。ただ、ここで挙げられている、例えばキビとかヒエとかというのはどちらかという栽培の経験というものは随分長いことあるわけですから、今おっしゃったような、栽培したことのある人の知恵を借りるとか、やり方というものは十分に参考になる、できるはずだというふうに私も思います。

ちょうど今、川洲畑の話が出たのですが、前後しましたけれども、先ほど休憩の時間に何人かで話したのですが、座長がおっしゃったように確かに安定的なところではないのではないかと、本来の川洲畑の場所は(再現するのは)今難しいとは言われましたけれども、本当は、自然の中でできた中洲とかそういうところをつくるのが本来の川洲畑のつくり方だと思うので、難しいとは思いますがけれども、それが少ない面積でも良いですから、やはり本来の川洲畑の場所を是非探して、それが五畝でも良いし、一反でも良いんです。やっぱりそれはやってほしいと、私は思っています。

*** 座長**

ありがとうございました。私もそう思います。大きくななくても良いんです。よく育たなくても、要するに、ああいうふうにやったんだよということを示すことができれば良いのではないかと思います。

とりわけ沙流地方は農耕が盛んだったようすし。

*** 座長**

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

調査班の方も一生懸命やっていると思います。でも、その地形によりまして水分があったり、いろいろございます。普通の畑と違いますので十分に育たないと思います。それなので、これからも水分とかいろいろ研究してやっていけるのではないかと思います。今、委員が言われたように場所は広くなくても良いから、そういうところを使用して試験栽培をやっていったら良いのではないかと思います。

*** 調査班作業指導員**

川洲畑の件は、委員が言われた通りだと思います。画像に出た部分は採草地であったということでイメージから離れたところがありますが、確かにその通りだと思っております。(先ほど委員から言われたような)そういう候補地も把握しております。

それから今年の栽培に関して、私、本職は百姓で、私は5月の連休が終わったら種を蒔いているんです。ところが(この)仕事が始まったのが5月中頃から、そして開発(建設部)と協議して使って良いよと許可が出たのが6月、それから(種を)蒔いて、まともに収穫できるはずがありません。ですから、もしもこれをきちんと成功させるには、4月中に事業開始になっていなければ、これは不可能です。

*** 座長**

そういう条件があったということはよく分かりました。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

今の話の中のことも含めて関連したことですけれども、休憩後の説明も含めて、この川洲畑については、将来に向けてどういうふうにするのかというのと少しかけ離れているかなと思うんです。それで、そこら辺の分け方ですか、先ほど座長が言われたように、どういうふうに作っていたのかという再現と、将来どのようにして使うのかという話は、ちょっと違うのかなと思うんです。この辺の色分けとかも、これから必要になってくるのかなと思います。

*** 座長**

ありがとうございます。それでは、今までいただいたようなご意見を含めて、更に検討を加えるということで宜しいでしょうか。それで、できるだけ完璧な植物の保全対策、あるいは栽培のことも含めて進めるといことにしたいと思います。どうもありがとうございました。

もう一件あります。生活文化の保全対策についてということです。これも事務局からまず説明してください。

(2) 生活文化の保全対策について(案)【資料 - 5、5の1】

*** 事務局より、資料 - 5「生活文化の保全対策について(案)」、5の1「アイヌの人たちの農耕 - 「川洲畑」 - について」について説明**

*** 座長**

またここで、コポンチカルが出てきているわけです。生活文化の保全対策というのはコポンチカルの問題だけではないかもしれないけれども、先ほどの最初の説明、つまりどういう有用植物を使うかということに関連した生活文化の保全対策というふうに解釈、この場合には解釈しておいたら良いのではないかと思います。それで、まさに先ほど 委員がおっしゃったようなことも含めて、ここでも今の説明についてのご質問なりご意見なりをいただきたいと思います。もう既に先ほどご質問があったんですけれども、何かありましたらどうぞ。

ここでやはり 委員、分けなければいけませんね、つまり見せるという、こういうところでやっていたんだという見せる場としてということと、もう一つは有用植物として栽培、実際に必要な量を栽培するというのは、やっぱり別の場でやるということも必要になってくる。どういうふうに分けるかということを考えておかなければいけないというのが、先ほどのご意見だと思います。いかがでしょうか。

そこでもしご意見がなければなんですけれども、先ほどのこととこれは繋がっていますから、まとめて申し上げて良いのではないかなと思うんですが、先ほどの長いリストがあります。資料 - 4の2(A)ここで一つは、先ほども 委員がおっしゃった工芸的なものだけではなくて、(平取アイヌ文化)保存会で検討、あるいはデータを持ってらっしゃるような項目を必要性のところにに入れるべきではないかということです。それから、栽培実証試験については、もう少し種類によっては先ほど 委員がおっしゃったように、専門家というか、そういうことをやったことのある方々のご意見なり協力を得た方が実際、実効性のある実験になるのではないかなということを含めて、この栽培実証試験はもう一遍、種類によっては考えなければいけないのではないかなということを加えたいと思います。

それでそういったことも含めて、以前に二風谷の生活館でワークショップを行いました、ああいうような形で、やっぱりご意見を伺った方が良いのではないかなと思います。忌憚のないご意見を、これはこうした方が良いのではないかと。と言うのは、今日は個々についてまでとても時間がありませんから、この種類はどうする、この種類はどうするというところまで、とてもできないです。それから、この中に表には書いてあるのだけれども、これにまだ、先ほどのお話の保存会の方で食用としてはこういうものがあるんだということが出てくるかもしれない。もう一遍そういうのを組み替えなければいけないと思います。そういうためにも、一回で済むかどうかは分かりませんが、さしあたって何らかの形でワークショップをやった方が良いのではないかなという提案をしたいと思います。それが一つです。

それから、もう一つは、先ほど調査班の説明の時に、調査班ではアイヌ語名でずっと進めてきているんだというふうに伺って、それはそれで良いんですけれども、今の有用植物のチェックリストを作るとき、つまり、これはどう扱うかといったときには、分類順でないともものすごく大変なんです。例えば、オヒョウとハルニレというのは並んでないと、ものすごく使いづらいんです。オヒョウ(アツニ)のところを見て、次はハルニレのところを探すということになれば、ずーっと下の方へ行って27番のところまでいかなくてはならないんです。だから、同じ分類の仲間と同じように使うということにはならないのかもしれませんが、そういう意味での作業上ではやっぱり分類順に並んでないと、グループ、仲間ごとにまとまってないと、あっちを見たり、こっちを見たりしなければならぬ。それは作業用のための表だとはっきり割り切ってやった方が良いのではないかなと思います。本当は、それに基づいてカードにしておくが一番良いですね、組み換えできますから。しかし、それは調査班の方でおやりになるべきです。今は、何もカードではなくてデータとして、データベースに入れておけばいいわけですから、これで良いんですけれども、アイヌ語でやるというのはまさにこの場合、正統的なやり方には違いないんですが、実際の作業をやる時には割り切って作業用の表を作る必要があるのではないかと私は

思います。これは調査班で検討していただきたい。

例えばイラクサなら、エゾイラクサがあって、ムカゴイラクサがあって、というふうに並んでいないと、あっちを見たり、こっちを見たりしなくてはいけない。

*** 調査班作業主任**

ご指摘のように整理をしやすいようにしたいと思います。作業的にはコンピューター上では上手くキーワードを入れることで、先生がご希望のような分類も簡単にできるかと思しますので。

*** 座長**

表は両方あった方が良い。

*** 調査班作業主任**

作業は、いとわないようにいたします。

*** 座長**

どういう表にするかというのは、お任せしますから。ご検討ください。

6 . その他

*** 座長**

他にお気づきの点いかがでしょうか。

私は二風谷に住んでいるということもありまして、いろいろ聞いているのですが、今、調査班が一生懸命頑張ってくれているけれども、忙しいみたいだと。実際、本当に、進行状況がどれくらい、どういうふうになっているのかということが(気になっています)。この検討会は一応、来年の3月までですよ。そういうことも含めながら、前にも言ったことがあるのですが、時間がないから雑なものを作るのであれば、それは少し違うことだということで、その辺が実際、今、一生懸命きちんとしたものを作ろうとしているんでしょうけれども、今、先生が言うようなことの仕事が増えると、また時間が要ると(思うので)、そういうのもありながら、どういう状況なのかというのを聞きたいなと思います。

*** 調査班作業主任**

今の状況ということですがけれども、自己評価のようなことになるので言い方が難しいところがありますが、業務の委託・受託という関係のなかで示された課題的なことについては、懸命に取り組んでおりまして、かなり作業は進んでいるかなと自己評価をしております。これまで足かけ5年になりますので、できるだけ早くに成果としてまとめていくといったことも着手した当初から心がけておりますから、今日のような発表も何回も検討を重ねてきた、その一端をお出しするということで、比較的スムーズに準備できたかと思っています。ただ、こういうことがありまして、全体として「調査」ということになっておりますが、実は作業内容がやや「対策」にシフトしつつあるのかなと思うわけです。それは現場の

作業、例えば移植ですとか、あるいは番兵小屋についても丁寧に詳細にやろうということで、前後1週間ほど現場にかかったりとか、その後、出てきた物の処理とかということもありました。それから、移植についてはダム事業所さんも一緒になって、現地で掘り出して、また穴を掘って移植先に植えるというようなことも何日もやったりしたわけですが、当然そういった植えたものについてのフォローといったことも出てきます。ですから調査は引き続き継続するという項目もありますけれども、そういった対策といった業務内容が入ってきて全体としてはそういったものにシフトしていくという兆候がはっきりと出てきていることが現場の作業をやや圧迫しているようなところがあるかなと判断しております。課せられた業務課題については割とスムーズにこなしつつも、そういったことは率直に申し上げないと今、調査班が抱えている状況についてご理解いただくためには必要なことかなと思っております。

* 座長

調査班のご苦労はよく分かりますし、随分よくやったださっていると私も思います。多分、委員のご心配というのは、あまり過大にいろいろなことを頼むと大変なことになるのではないかとということが一つあるのではないかと思います。ただこういうデータというのは、出してくださる方は一生懸命出してくださるんですけども、データそのものを見てケチをつけるというのは非常に楽なものですから、それでこう申し上げているというだけです。

だいたいこれで予定の時間なのですけれども、委員、何かご感想でも伺って(会を)閉じようかと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

それほどのごことはございませんけれども、精神文化の保全に続いて、より具体的に植物保全、それから生活文化の保全というふうに検討の作業が進行していくという運びになっているわけですが、その際に関係の皆さん、とりわけアイヌ民族の意見をふまえながら先ほど座長のご提案があったような、具体的な意見を反映させていく場の設定も含めて進行させていくことが望ましいのかなというふうに考えております。

* 座長

どうもありがとうございました。

先ほど、調査班の方からカムイノミの説明がございましたけれども、趣旨については全くその通りでございます。ただ、ご存じの方は多いと思うのですけれども、知らない方に誤解があったら困るので主催は(北海道)ウタリ協会平取支部(以下:支部)で行います。ですから、先ほど述べた考え方は調査班の考え方というより、(支部と調査班)は協調してやっていますけれども、支部の考え方でそういう趣旨でやるということをご理解ください。説明(の内容)についてはその通りです。

* 座長

どうもありがとうございました。それでは今いただいたさまざまなご意見を反映して、より具体的な保全対策を作るとまとめたいというふうに思います。では、ここで準備された議題はすべてクリアしましたので、事務局にお返しいたします。お願いいたします。

***事務局**

辻井座長ありがとうございました。事務局といたしましても、本日もご議論、ご指摘いただいた内容をふまえて調査班とも協力して再度資料の方も整理しつつ、また引き続きご指導、ご相談させていただきながら、次のステップに進んで参りたいと考えております。引き続き宜しくお願いいたします。それでは、これをもちまして第5回検討会を閉会といたします。本日はどうもありがとうございました。

有用植物の保全対策に関わる勉強会まとめ（案）

日 時：平成19年12月22日（土） 13：35～16：25

場 所：二風谷生活館 会議室

出席者：検討会委員8名、ほか傍聴者 聞取調査対象者、平取町、同教育委員会（調査班含む）、
沙流川ダム建設事業所

次 第：

- 1 カムイノミのふりかえり 検討会委員
- 2 第5回検討会の植物保全対策（案）のふりかえり
- 3 第5回検討会以降の聞取調査結果の報告（食文化・工芸）
- 4 平取ダム建設予定地における有用植物の生育条件と維持管理等について（三木 昇氏）
- 5 意見交換
 - (1)有用植物の保全対象について
 - (2)有用植物の利用に応じた管理方法等について
- 6 意見の整理

主な内容

○第5回検討会以降の聞取調査結果の報告（食文化・工芸）

- ・先祖が順位付けをしたかは分からないが、重み付けは考えていなかったと思う。先祖の時代にはチクペニなどはイナウに使用するなど非常に重要だった。しかし重み付けを現在の工芸から考えていくと、昔は重要だったが、今は順位が低くなる。
- ・もう一回これを見直して、抜けているところを補完することをやった方がいいのではない。そうでないと今書き込んであるものが一人歩きする恐れがある。
- ・時代の変化とともに重要性が変わっている。年代別の重要性を考えるべきと思う。
- ・「入手性」という欄は、○が付いているのと付いていないという区別よりも、「有る」、「無い」の方が分かりやすいので、誤解のないような書き方に変えた方がいい。
- ・保存会の欄で、「食」の部分の○が少ないことについては再度、調査を行う方がよい。

○調査班よりの補足説明

- ・調査班の調査結果から、ウエペケレ等のアイヌの物語の中に、例えば、エゾマツの女神のように、植物と精神文化との関係が描かれている例がある。

○意見交換

（1）有用植物の保全対象について

- ・北斜面、南斜面によって日当たりは違うと思うが、検討する上で意味があるか。
- ・顕著な違いはないと思うが、実際にはよくわからない。
- ・ハルニレはアイヌの有用植物ではないが、ハルニレがある林床には有用植物が生息するということか。

- ・ハルニレ林があるところは、水際で栄養があるため、食べ物になる植物があるということ。ただ、モシリエルウシの話のように、地すべりによる土地の更新がなければ、ササが増えたりして有用な植物が生長できなくなる。
- ・半栽培とは何か。
- ・要らないものを排除するという多少のお手伝いをするを「半栽培」と表現した。
- ・宿主別川下流の右岸は傾斜がきつい。15年くらい前に調査したときには、数本ではあるがオヒョウが確認できた。
- ・この辺りは、もともとオヒョウは少ないのか。
- ・昔はあったと思うが、あの辺は炭焼きが行われていたので、炭焼きのために切ってしまったのではないか。
- ・我々の民族は信仰に対する思いが非常に強い。例えば、フレアユシニ（キイチゴ）を使い、清め草（タクサ）として御祓いに利用していた。現在は、「利用しない」となっているが、先祖の時代には非常に重要であった。
- ・例えば、有用植物の重み付けを考える上でのチェックリストに、伝承、歌、物語のような項目も作って、判断の要素にしてはどうか。
- ・そういう手がかりで精神文化も整理した方がいいと思う。
- ・食文化について興味深い。有用植物に関しては、いつの時期に採取して、どのような保存方法をとっているか、どれくらいの保存期間かのような記述が大事ではないか。
- ・そのことに関しては、過去3年間の総括報告書に全て記載されている。
- ・どこに何が生えているかを皆が知っていることが大事。舟を作れるようなカツラが大きくなるのは150年後になる。
- ・樹木は、「待つ」ということが必要で、草本には、「半栽培」という方法がある。植物によっては、水気を好む、または水はけの良いところを好むものもある。自然の条件と生育の条件を組み合わせて、モデル的な所を考える必要があるのではないか。手を加えることを考慮して、三木さんのお力も借りながら、考えていくことを始めていくのが必要ではないか。上手くいけば、モデル的な場所を来年の検討会の際にはこういう場所はどうかという検討をしていくことができるかもしれない。
- ・モデル地ということ言えば、カヤとガマが足りないと聞くので、優先ということではないが、来年から始めてもよいのではないか。「使えば、つくる」という流れができればよいと思う。
- ・ノガヤの場所はあるか。
- ・豊糠の近くにある。
- ・限られた場所でも適地はある。モデル的なところを選定していくにあたっては開発（建設部）の理解をいただきたい。

（2）有用植物の利用に応じた管理方法について

- ・「有用植物の利用に応じた」と言うよりは、むしろ「有用植物の特性に応じた」と言った方がよいが、管理方法についても今後考えていく必要がある。実際には、管理のトレーニングが必要だと思う。それから、誰がやっていくかということも考えなければならない。また、ダムの用地は個人で使っていない訳ではない。共有地でもないが、入会権のようなことを考えられない

だろうかと思う。

- ・一般的に、入会権とは誰に対して義務を負うのかということが問題で、今回のケースは誰に対しての入会権かという性格のものではない。特定の人間が自分の利益のためにやるのではなく、共有の土地をみんなのために使うというところがポイントになる。似たようなものとして、「国有地入会」という考え方はある。
- ・今年の9月13日に国連人権宣言が採択された。国有林や道有林の一部を、採取のために最小限開放してほしいという意見を述べておきたい。

7. 意見の整理

- ・有用植物については、大きく保全・採取・保存と分けられるが、モデル的な場所をまとめてみたいと考えており、第6回検討会でご意見を伺いたい。一定の量が必要なものについても考慮したい。誰がやるのかという点については、将来にわたって引き続き「国有地入会」の考え方も含めシステムを考えていきたいと思う。
- ・カムイノミのふりかえりのところで、皆さんのお話から、学び直しの機会であったと感じた。アイヌ文化は信仰が基本と考えるが、植物の利用は生活の中で伝承されるもので、まさに伝統文化そのものとも言えることから、その保全対策を考えていくことが大切である。

以上

(1) 植物の保全対策に係る検討

1) 有用植物保全対策の全体的な進め方と保全モデル地区(案)の設定について

①有用植物保全対策の全体的な進め方

- ・平取ダム事業用地における有用植物の「生育適地」の検討



有用植物の保全対象候補地の抽出(平取町調査班)



【どこで保全するか】

- ・保全対象箇所の標高(ダム水位との関係)の確認
- ・管理上の利便性(アクセスのしやすさ)の確認



【何を保全するか】

- ・有用植物の重み付けを考える上でのチェックリストの作成と確認
- ・平取ダム建設予定地における現存植生状況の確認



【将来どのように利用するか】

- ・保全対象地における保全目的と役割の確認
- ・ダムの施設区域と工事との関係確認



有用植物保全モデル地区(案)の選定

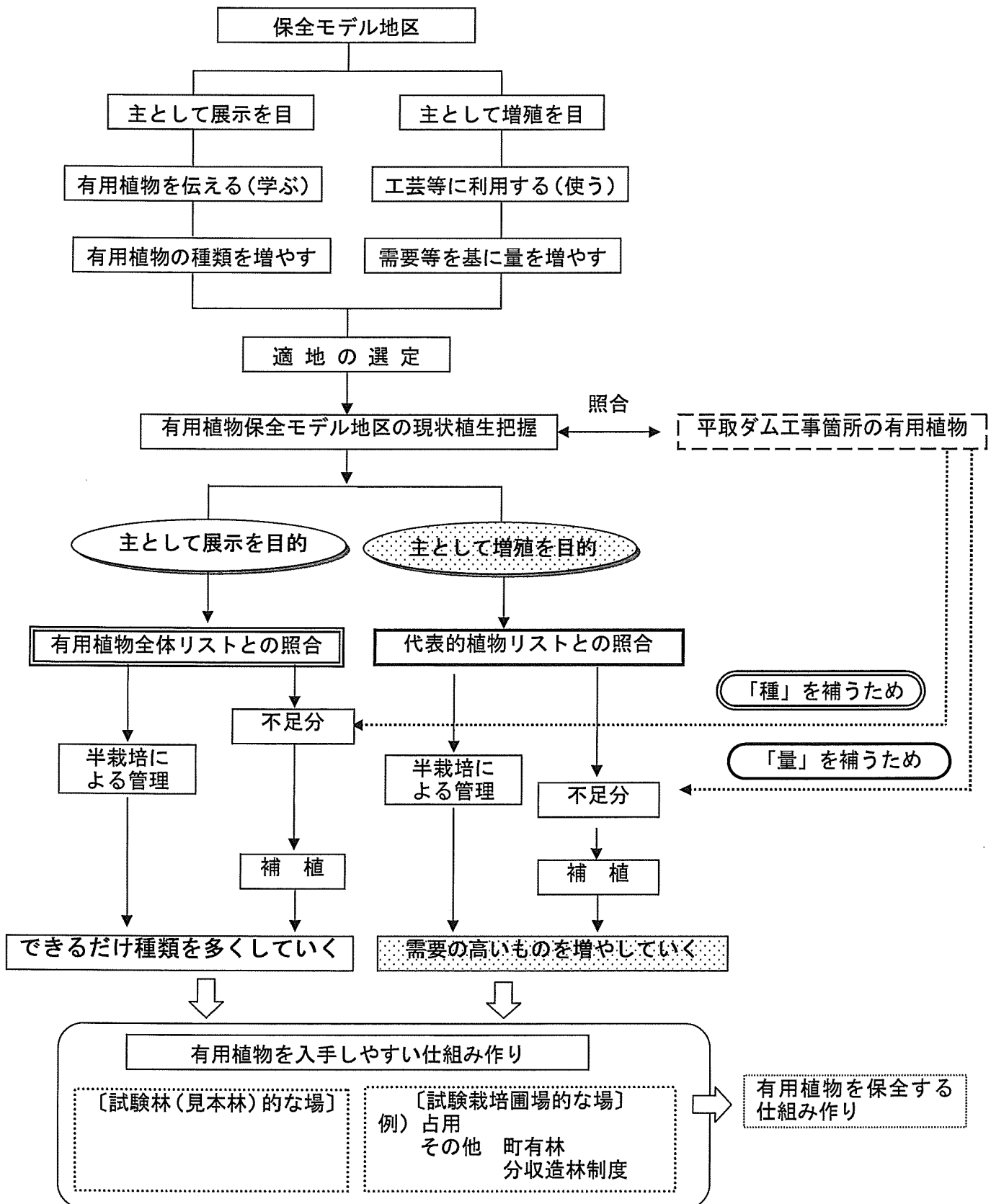


モデル地区における具体的な保全対策の実行

〔有用植物保全対策に関する具体的手順フロー（案）〕

※「有用植物全体リスト」：平取町調査班調査報告書（H17・18）

※「代表的植物リスト」：生態系遷移ワーキング報告書（H17）



有用植物に関わる全体リスト（木本類）（案）

No.	有用植物項目				アイヌ文化環境保全対策調査総括報告書より										利用実態（聞取調査により補足）							
					用途					利用状況			現存状況		再現可能性	食に関する聞取						
	区分	科目名	和名	アイヌ語名	食	薬	生活用具	信仰	その他	かつて利用されていた材料	現在使用されている材料	現在使用されている材料の事例	ダム用地	ダム用地以外		ウタリ協会平取支部	二風谷観光振興組合	企業組合二風谷民芸	食文化部会(アイヌ文化保存会)	追加聞取調査(2件)		
1	被子植物	クルミ科	オニグルミ	ネシコ	○		○	○	漁具・染料	○	○	食・小刀の鞘	○	○	○		●	○		☆ ☆		
2		ヤナギ科	ヤナギ類	スス		○	○	○	漁具	○	○	リュウマチ・箸・イナウ	○	○	○	○	●	○				
3			バッコヤナギ	チブニスス			○				○	○	丸木舟	○	○		○	○				
4		カバノキ科	シラカンバ	レタッタツニ		○	○	○	染料・入れ墨	○	○	母乳がよく出る	○	○	○			○				
5			(ハンノキ)	ケネ		○	○	○		○	●	チセの骨組み	○	○	○			●				
6			アサダ	セイェカバラ			○				○	●	織機の道具	○	○				●			
7			ウダイカンバ	シタツ			○				○	○	樹皮のお椀	○						○		
8		ブナ科	クリ	ヤムニ		○		○			○	○	食	○	○						☆ ☆	
9			(どんぐり)	ニセウ		○				ヒグマの食べ物	○			○	○						◆	
10			ミズナラ				○	○		ヒグマの食べ物	○	○	臼	○	○	○			●		◆	
11			コナラ	ペロ			○	○		ヒグマの食べ物	○	●		○	○				●		◆	
			カシワ	トゥンニ		●	●				●			●	●	●						◆
12		ニレ科	ハルニレ	チキサニ			○				○	●		○	○	○			●			
13			オヒョウ	アツニ			○				○	○	着物など	○	○	○	○	○	●			
14		クワ科	ヤマグワ	トゥレブニ		○	○	○			○	○	食・食用箸	○	○				●		☆ ☆	
15		ヤドリギ科	ヤドリギ	ニハル		○	○	○			○			○	○						■	
16		ツツジ科	ツツジ類	リテンニ		○			(○印のみ)	○	○	食		○							◆	
17			ハクサンシャクナゲ	リヤムシ					煙草の代わり	○												
18		モクレン科	キタコブシ	オブケニ		○	○				○	○	食・風邪予防	○	○							
19			ホオノキ	ブシニ			○	○			○	○	漢方薬・山刀の鞘	○	○				○			
20		マツバサ科	チョウセンゴミシ	レブニハツ			○				○	○	咳止め	○	○						■	
21		カツラ科	カツラ	ランコ			○	○	(○印のみ)	○	○	舟	○	○	○	○	○	○				
22		マタタビ科	サルナシ	クッチ		○	○	○		ヒグマの食べ物	○	○	食・神経痛・カンジキ	○	○				○		☆ ☆	
23			マタタビ	マタタンブ		○	○				○	○	食・嘆息	○	○							☆ ☆
24		ユキノシタ科	ノリウツギ	ラスパ			○		(○印のみ)	○	○	櫛	○	○				○				
25			マルスグリ	ー		○					○	●	食		○							☆
26		バラ科	サクラ類	カリンパニ		○	○	○		ヒグマの食べ物	○	○	食・山刀の鞘	○	○	○			○		■ ■	
27			エゾノウワミズザクラ	キキンニ		○	○		○		○	○	食・風邪薬	○	○	○			○		◆	
28			ナナカマド	イワキキンニ		○			○		○				○							
29			ホザキシモツケ	ニタッシンケブ			○				○											
30			シウリザクラ	シウリ			○			ヒグマの食べ物	○	○	キテ	○	○				○			
31		マメ科	イヌエンジュ	チクベニ			○	○			○	○	チセコロカムイ	○	○			●	○			
32	エゾヤマハギ		シンケブ			○		焚き付け	○				○	○								

※記号例 ○=総括報告書データ ●=聞取補足データ ▲=文献データ(アイヌの食材-アエブ-参照)
 ※ウタリ協会平取支部からは上記の項目の他に、薬として利用される植物も挙げられている。

有用植物に関わる全体リスト（木本類）（案）

No.	有用植物項目			アイヌ文化環境保全対策調査総括報告書より										利用実態（聞き取り調査により補足）										
				用途					利用状況			現存状況		再現可能性	食に関する聞き取り									
	区分	科目名	和名	アイヌ語名	食	薬	生活用具	信仰	その他	かつて利用されていた材料	現在使用されている材料	現在使用されている材料の事例	ダム用地	ダム用地以外	栽培実証試験	ウタリ協会平取支部	二風谷観光振興組合	企業組合二風谷民芸	食文化部会（アイヌ文化保存会）	追加聞き取り調査(2件)				
33		ミカン科	キハダ	シケルベニ	○	○	○	○		○	○	食・傷薬・染料	○	○	○	○			●	●	◆			
34			サンショウ	カンチカマニ	○		○			○	○	食		○							■	◆		
35		ニガキ科	ニガキ	シウニ	○	○	○			○											◆	◆		
36		ウルシ科	ヤマウルシ	ウッシ			○			○			○											
37		カエデ科	いたや類	トベニ	○	○	○	○		○	○	食・母乳がよく出る・小刀の鞘	○	○	○			○			◆	◆		
38		ニシキギ科	ツルウメモドキ	ユクルオマニ			○			○	○	縄・紐	○	○				○						
39			ツリバナ	カスブニ			○			○				○	○									
40		ミツバウツギ科	ミツバウツギ	エソロカンニ			○			○			○	○										
41		ブドウ科	ヤマブドウ	ハツ	○	○	○	○	ヒグマの食べ物	○	○	食・モリの台木	○	○				●			☆	☆		
42			ノブドウ	ー			○			○	○	湿布		○								■		
43		シナノキ科	シナノキ	ニベシニ			○			○		彫刻・衣服	○	○	○			●	○					
44			オオバボダイジュ	ヤイニベシニ			●			●		彫刻・衣服	●	●	●									
45		ミズキ科	ミズキ	ウトウカンニ			○	○		○	○	イナウ	○	○	○	○		○						
46		モクセイ科	ハシドイ	ブンカウ			○	○		○	○	チセコロカムイ		○	○			●						
44			アオダモ	イワニ			○		刺青	○			○	○	○									
47			ヤチダモ	ピンニ			○			○			○	○	○				●					
48		ウコギ科	タラノキ	アユシニ	○	○	○	○		○	○	食・糖尿病	○					●			☆	☆		
49			ケヤマウコギ	ホロカアユシニ	○					○			○									◆		
50			ハリギリ	アユシニ			○			○	○	箕	○	○	○				○					
51		スイカズラ科	エソニフトコ	ソコニ	○	○	○	○		○	○	食・利尿作用	○									◆		
52	裸子植物	マツ科	エソマツ	スルク	○	○	○	○		○	○	煎じて飲む							○			◆		
53			トドマツ	フブ	○		○			○	○	熊の干し棒	○	○				●				◆		
54		イチイ科	イチイ	クネニ			○			○	○	弓		○					○			■		
55	菌類	イグチ科	ハナイグチ	ー	○					○	○	食		○								☆	☆	
56		サルノコシカケ科	さるのこしかけ	アペオブカルシ	○					○				○										
57			マスタケ	ー			○			○	○	食		○									☆	□
58			マイタケ	ユクカルシ			○				○	○	食		○									☆
59		ヒラタケ科	タモギタケ	チキサニカルシ	○					○	○	食	○											☆
60	地衣類	カブトゴケ科	カラフトカブトゴケ	ニコンプ	○					○				○										

※記号例 ○＝総括報告書データ ●＝聞き取り補足データ ▲＝文献データ（アイヌの食材－アエブ－参照）
 ※ウタリ協会平取支部からは上記の項目の他に、薬として利用される植物も挙げられている。
 ※◆：子供の頃のみ食べた、☆：子供の頃から現在まで食べる、■：時々食べる、□：最近食べる
 ※薬として服用したものについては、「食」とした。

有用植物に関わる全体リスト（草本類）（案）

No.	有用植物項目			アイヌ文化環境保全対策調査総括報告書より										利用実態(聞き調査により補足)					
				用途					利用状況			現存状況		ウタリ協会 平取支部	企業組合二 風谷民芸	食に関する聞き			
	食	薬	生活用具	信仰	その他	かつて利用 されていた 材料	現在使用さ れている材 料	現在使用さ れている材 料の事例	ダム用地	ダム用地 以外	食文化部会 (アイヌ文化 保存会)	追加聞き 調査(2件)							
1	双子葉植物	イラクサ科	エゾイラクサ	ハイキナ	○		○			○	●	着物の繊維	○	○		●		■ ■	
2			ムカゴイラクサ	カバイ			○			○	●		○	○		●			
3			イラクサ	イピシシブ								●	着物の繊維				○		■
4		タデ科	オオイタドリ	イコクツタ	○	○	○	○		○	●	食	○	○				■ ■	
5			ヒメスイバ	ー	○					○	○	食						◆ ◆	
6		スベリヒユ科	スベリヒユ	ー	○					○			○						
7		ナデシコ科	ハコベ	リテンキナ		○				○			○	○					
8		アカザ科	アカザ	ー	○					○	○	食	○					◆	
9		キンボウゲ科	ニリンソウ	ブクサキナ・オハウキナ	○	○				○	○	食・産後回復	○	○	○		●	☆ ☆	
10			エゾノリュウキンカ	ー	○					○			○						
11			カラマツソウ	アリッコ		○				○			○	○					
12			トリカブト類	スルク			○			○			○	○					
13		ケシ科	エゾエンゴサク	トマ	○					○	○	食	○						
14			クサノオウ	オトムブイキナ		○				○			○						
15		バラ科	クロイチゴ	クンネアユシニ	○	○				○	○	食・腹痛	○					☆ ☆	
16			(イチゴ)	エマウリ	○					○	○	食	○	○				☆	
17			(キイチゴ)	フレアユシニ				○		○	●	食	○	○				☆ ☆	
18		マメ科	ヤブマメ、ツチマメ	アハ	○					○	○	食	○	○			●	■ ■	
19			ムラサキツメクサ	ー	○					○			○					◆ ■	
20		フウロソウ科	ゲンノショウコ	ポンライタ		○				○			○						
21		ヒシ科	ヒシ	ベカンベ	○					○	○	食						◆	
22		ウコギ科	ウド	チマキナ	○	○			(○印のみ)	○	○	食・傷薬	○	○			▲	☆ ☆	
23		セリ科	アマニュー	チフイエ	○					○	○	食	○	○			▲	■	
24			オオハナウド	ピットク	○					○	○	食・織木の一部	○	○		●		◆	
25			エゾニュー	ー	○					○			○						
26			セリ	ー	○				ヒグマの食べ 物	○	○	食	○	○					☆ ☆
27			ミツバ	ー	○					○	○	食	○	○					☆ ☆
28			ホソバトウキ	ウベウ		○					○	●			○			●	
29		サクラソウ科	クサレダマ	ー	○					○				○					
30		ガガイモ科	イケマ	イケマ・ベヌブ	○	○	○	○		○	○	食・流行り風 邪など	○			●			
31			ガガイモ	エブンカウ	○					○	○	食	○						◆ ◆
32		シソ科	ナギナタコウジュ	エント		○				○	○	何かの薬	○					◆	
33		オオバコ科	オオバコ	エルムキナ		○				○			○						
34		キキョウ科	バアソブ	ムク	○	○		○		○	○	食・母乳がよく 出る	○	○				◆	
35			ツリガネニンジン	ムケカシ	○					○	○	食	○						
36		キク科	アキタブキ	コロコニ	○	○	○		ヒグマの食べ 物	○	○	葎・ほしかの薬・ 日よけの家・仮小 屋の材料	○	○	○	●	▲	☆ ☆	
37			(ヨモギ)	ノヤ	○	○			(○印のみ)	○	○	食・止血剤・ 矢柄	○	○		●		☆ ☆	
38			アザミ類	アンチャミ	○					○	○	食	○						◆
39			ハンゴンソウ	オロムン	○					○	○	食	○	○					

※記号例 ○=総括報告書データ ●=聞き調査補足データ ▲=文献データ(アイヌの食材-アエブ-参照)
※ウタリ協会平取支部からは上記の項目の他に、薬として利用される植物も挙げられている。

有用植物に関わる全体リスト（草本類）（案）

No.	有用植物項目			アイヌ文化環境保全対策調査総括報告書より										利用実態(聞き調査により補足)						
				用途					利用状況			現存状況		ウタリ協会 平取支部	企業組合二 風谷民芸	食に関する聞き				
	食	薬	生活用具	信仰	その他	かつて利用 されていた 材料	現在使用さ れている材 料	現在使用さ れている材 料の事例	ダム用地	ダム用地 以外	食文化部会 (アイヌ文化 保存会)	追加聞き 調査(2件)								
40	キク科	ヨブスマソウ	チレクテクッタラ	○				(○印のみ)	○	○	食	○	○			◆	◆			
41		キクイモ	ー	○					○	○	食					◆	◆			
42		モミジガサ	ー	○					○	○	食	○	○			☆	☆			
43		タンポポ類	ホノイノイエブ		○					○			○	○			◆	◆		
44	単子葉植物	ユリ科	オオウバユリ	トゥレブ	○	○		○			食・下痢止め	○	○		●	●	◆	■		
45			ギョウジャニンニク	ブクサ	○	○		○				薬・折衝師も薬 力が強い薬草と 思われていた	○	○	○		●	☆	☆	
46			カタクリ	エシケリムリム	○					○	○	食	○	○				☆	☆	
47			ヒメイズイ	キウ	○					○	○	食							◆	
48			エンレイソ・ヒダカエンレイソウ	クンネキナエマウリ	○					○	○	食	○	○					◆	◆
49			エゾネギ	シクトル	○					○					○				☆	☆
50			シュロソウ	ヌベ	○					○	○	食・薬	○	○			●			
51			ノビル	ネンピロ	○					○	○	食	○						☆	☆
52			ユキザサ	ペペロ	○					○	○	食	○	○					☆	☆
53			タチギボウシ	ウクルキナ	○					○	○	食	○							
54			イネ科	(ミヤコザサ)	フツタブ	○					○	●	仮小屋の材料	○	○		●			
55				チシマザサ	ルムネトブ	○					○				○				◆	
56				キタヨシ・ツルヨシ(ヨシ)	サラキ・スブキ			○			○	●	チセの材料	○	○	○	●			
57				オギ	シキ			○			○	●	チセの材料		○		●			
58	ススキ類	シキ・スブ・キ・ラベンベ				○			○				○							
59	ススキ類(カヤ)	シキ・スブ・キ・ラベンベ							●				○	●						
60	サトイモ科	コウライテンナンショウ	ラウラウ	○	○				○	○	食・湿布薬	○	○	○						
61		ザゼンソウ	シケレベキナ	○			○	ヒグマの食べ 物	○			○	○							
62	ガマ科	ガマ	シキナ			○	○		○	○	トマ(コサ) まじない・チセ の材料	○	○	○	●					
63	カヤツリグサ科	サンカクイ	ソソバオキナ			○			○				○							
64		(カサスゲ)	ヤヤンキナ			○			○				○							
65	ラン科	コケイラン	ミマクコトウク	○	○			漆器磁器	○	○	食・腹痛・漆 器磁器の補修	○	○				◆			
66	シダ植物	トクサ科	スギナ	○	○				○	○	食・糖尿病	○	○				◆			
67		トクサ	シブシブ			○			○			○	○							
68	ゼンマイ科	ヤマドリゼンマイ	ソロマ	○					○	○	食	○	○				☆	☆		
69	チャセンシダ科	コタニワタリ	エフルベシキナ		○			たばこの代用	○				○							
70	メシダ科	クサソテツ	ソロマ	○			○		○	○	食・風邪予防	○	○			▲	☆	☆		
71	ワラビ科	ワラビ	ワランベ・ワラムビ	○					○	○	食	○	○				☆	☆		

※記号例 ○=総括報告書データ ●=聞き調査補足データ ▲=文献データ(アイヌの食材-アエブ-参照)
 ※ウタリ協会平取支部からは上記の項目の他に、薬として利用される植物も挙げられている。
 ※◆: 子供の頃のみ食べた、☆: 子供の頃から現在まで食べる、■: 時々食べる、□: 最近食べる
 ※薬として服用したものについては、「食」とした。

代表的な保全対象の木本類・草本類（代表リスト）について

※ 下表は、「平成17年度総括報告書 生態系遷移ワーキングチーム報告」より抜粋したもので、利用頻度の高い有用植物を代表的な植物とみなしています。

※ 下表の色付き箇所は、現在、栽培実証試験を行っているものです。

■対象種－木本類

植物名	利用例	植物名	利用例
オニグルミ	食用、生活用具	エゾヤマザクラ	食用、生活用具
ハルニレ	薬、生活用具	ホオノキ	薬用、生活用具
オヒョウ	衣服	バッコヤナギ	生活用具
ハシドイ	生活用具	ツリバナ	生活用具
ヤチダモ	生活用具	ウダイカンバ	生活用具
シナノキ	生活用具	イヌエンジュ	食用、生活用具、儀礼、その他
センノキ	儀礼、生活用具	イチイ	薬用、生活用具
ミズキ	儀礼	ミズナラ・カシワ	生活用具
キハダ	食用、薬用、生活用具、儀礼	エゾマツ	狩小屋
イタヤカエデ類	食用、生活用具、儀礼、その他	ノリウツギ	生活用具

■対象種－蔓植物

植物名	利用例	植物名	利用例
ヤマブドウ	食用	サルナシ	食用

■対象種－草本類

植物名	利用例	植物名	利用例
ニリンソウ	食用	ススキ	建築資材
マムシグサ(コウライテンナンショウ)	食用	ワラビ	食用
ギョウジャニンニク	食用	ヤブマメ	食用
コタニワタリ	食用	イケマ	儀礼
オオウバユリ	食用	オギ	建築資材
ヤマドリゼンマイ	食用	サンカクイ(カンガレイを含む)	生活用具
クサソテツ	食用	ヨシ(ツルヨシを含む)	建築資材
アキタブキ	食用	ガマ(ヒメガマを含む)	生活用具
ウド	食用	ヒシ	食用

② 有用植物保全モデル地区（案）の選定について

有用植物の全般的な保全を図るにあたり、保全対象候補地と照らし合わせて、以下のとおり3種類の有用植物保全モデル地区の設定を行う。

保全対象植物に応じた保全モデル地区の設定

主となる 保全対象	保全対象候補 地の調査結果	現状自生植物	保全モデル地区の設定
多種の木本・草本	N-03※	オニグルミ キハダ オヒョウ アキタブキ ヨモギ シュロソウ オオウバユリ 他	多様な木本・草本類の 保全モデル地区-1
	S-05	ヤチダモ ハシドイ オヒョウ クサソテツ ミヤコザサ アキタブキ 他	多様な木本・草本類の 保全モデル地区-2
	S-11※	ハルニレ イヌエンジュ ヤチダモ 他	多様な木本・草本類の 保全モデル地区-3
スヅキ（ヨシ）等	N-08	ヨシ 他	スヅキ（ヨシ）の保全モデル地区
水生植物	S-10※	クサソテツ ミズバシヨウ 他	水生植物の保全モデル地区

※試験湛水時全部または一部に水没する地区

〔参考資料〕 保全対象植物と試験湛水期間に応じた保全モデル地区の利用想定時期

保全対象 植 物	保全モデル 地 区	ダム工事 期 間	試験 湛水 期間	ダム供用 開始後
多様な木本・草本	N-03※	-----		→
	S-05	—————		→
	S-11※	-----		→
スヅキ（ヨシ）等	N-08	—————		→
水生植物	S-10※	—————		→

※試験湛水時全部または一部に水没する地区

有用植物保全モデル地区の位置図（案）

多様な木本・草本類の保全モデル地区-1



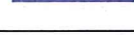



スプキ（ヨシ）の保全モデル地区

多様な木本・草本類の保全モデル地区-2

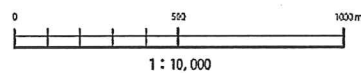
水生植物の保全モデル地区

多様な樹木・草本の保全モデル地区-3

凡 例

	制限水位 (152.5m)
	常時満水位 (167.4m)
	サーチャージ水位 (184.3m)
	現況道路
	付替道路
	河川敷地境界






縮尺 1 : 10,000



保全区域の記号

N = 額平川
S = 宿主別川

保全区域の植生面の特色
による分類

-  = 草本
-  = 水生植物
-  = スプキ(ヨシ)
-  = 樹木
-  = 植物園、圃場など

一平取ダム貯水池平面図一

2) 保全管理計画(案)の想定について

保全モデル地区の現状植生をふまえた有用植物を保全管理していくときの主な方法を整理すると、以下のように考えられる。

ア) 保全モデル地区の現状植生に関する事前調査を行う。

イ) 現存する有用植物の生育環境を維持・支援していく半栽培の方法を取り入れた保全管理を行う。

ウ) 保全モデル地区の現状植生に対して、展示目的(種の多様化)には「有用植物全体リスト」に対して不足するもの、増殖目的(量的増大)には「代表的植物リスト」に対して不足する当該植物について、補植による保全管理を行う。

なお、補植時期については、試験湛水期間を考慮する。

保全モデル地区名	保全対象候補地	現状自生植物	管理方法	補植方法	補植想定植物
多様な木本・草本類の保全モデル地区-2	S-05	ヤチダモ ハシドイ オヒヨウ クサソテツ ミヤコザサ アキタブキ 他	半栽培	移植・播種等	オヒヨウ等
スギ等の保全モデル地区	N-08※	ヨシ 他	刈取・野焼き等の管理	移植・播種等	ヨシ等
水生植物等の保全モデル地区-2	S-10※	クサソテツ ミズバショウ 他	刈取等の管理	移植・播種等	ガマ等

(以下については、ダム工事期間中は現存する有用植物の生育環境を維持する作業を主として行い、不足する当該植物については試験湛水期間終了後に補植による保全管理を行う。)

多様な木本・草本類の保全モデル地区-1	N-03※	オニグルミ キハダ オヒヨウ アキタブキ ヨモギ シュロソウ オオウバユリ 他	半栽培	移植・播種等	オヒヨウ等
多様な木本・草本類の保全モデル地区-3	S-11※	ハルニレ イヌエンジュ ヤチダモ 他	半栽培	移植・播種等	オヒヨウ等

[半栽培の方法]

○基本的な保全作業

- ・現地に自生している種を確認

<樹木>

- 現地踏査、目的種の発見
- 手入れ＝周囲の刈払い、枝おろし

<草本>

- 現地踏査、目的種の発見
- 手入れ＝周囲の刈払い

○基本的な頻度

- ・年間を通じて巡回し、必要に応じて下草刈を行う。
- ・夏場（5・6・7・8月）は、巡回を月に2回程度に増やす。

○半栽培的増殖の方法

- ・地表の確保、株分け、取り木など

有用植物の保安全管理に関する想定スケジュール（木本の場合）

年数の目安 ／項目	事前調査	1～3 年目	3～5 年目	5～10 年目	10～15 年目	15年 以降	適期
展示目的	保全モデル 地区現存植 生の詳細把 握	育苗圃 で育成	保全モ デル地 区に植 付	半栽培	半栽培	観 察	展示目 的の範 囲内の 採取
増殖目的	保全モデル 地区現存植 生の詳細把 握	育苗圃 で育成	保全モ デル地 区に植 付	下刈り、 枝払い、 除伐等	下刈り、 枝払い、 除伐等	半栽培	量的な 材料確 保を目 的とし た採取

(2) 生活文化の保全対策に係る検討

1) 川洲畑栽培実証試験地(案)の選定について

○平取ダム事業用地を対象とする



○保全対象箇所の標高(ダム水位との関係)の確認

○管理上利便性(アクセスのしやすさ)の確認



○立地条件の検討

かつては春先雪解けの大水が引いた後の川べりの泥の堆積地を利用した川洲畑の再現



かつて川洲畑を行っていた場所と類似した条件(土質、融雪出水等で冠水、日当たりがよい)の場所を選定



○実証試験地の選定

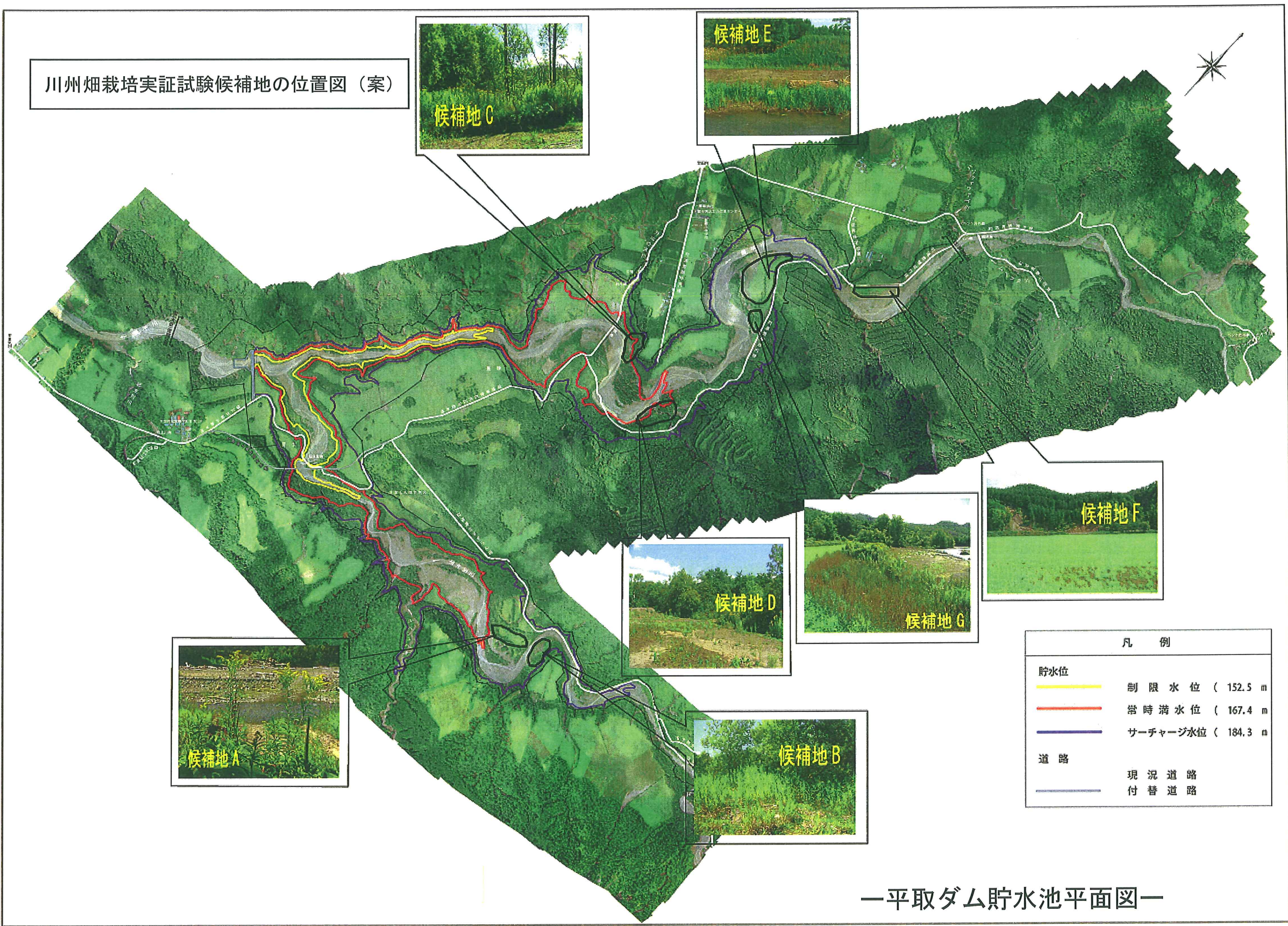
平取ダム事業用地における川洲畑の適地調査(平取町調査班)を中心に、現地調査をふまえて、実証試験候補地(案)の選定を行う。

2) 川洲畑栽培実証試験計画(案)の想定について

実証試験地の維持管理方法は、以下のように考えられる。

栽培候補種	管理方法
ヒエ アワ イナキビ ソバ	半栽培的管理

川州畑栽培実証試験候補地の位置図（案）



凡 例	
貯水位	
	制限水位 (152.5 m)
	常時満水位 (167.4 m)
	サーチャージ水位 (184.3 m)
道路	
	現況道路
	付替道路

—平取ダム貯水池平面図—

[半栽培的管理について]

○基本的な保全作業

- ・ 現地踏査
- ・ 播種地の選定
- ・ 収穫
- ・ 以後、継続して使う場合は、昨年度の草を除草して播種の場所を設定する

○基本的な頻度

- ・ 巡回して生育状況を見る。
- ・ 月に1回程度
- ・ 収穫間近は月に2、3回
- ・ 収穫の適期を見極める

○年間スケジュール（例）

時期	前年度	春	夏	秋	冬
準備	種の確保				
実証試験地		現地踏査			
		試験地設定			
		畝作り			
		播種	巡回	収穫	
検証					結果の整理

(3) 栽培実験について (案)

- アイヌの伝統文化継承の意義を有する有用植物群の栽培については、その資料的価値ならびに将来の活用をふまえて、適切な生育条件や維持管理方法についての試験研究と実証実験を行うことが必要であることから、栽培実験の継続を行う。

- 栽培実験の継続にあたっては、その目的性を明確にしたうえで、必要に応じて専門的指導を得ながら、有用植物の地域性のある種の多様化と採取・利用のための量的増大のための栽培技術の蓄積と向上を図る。

- 試験栽培圃場としての栽培実験地は、維持管理上、目の届きやすい場所に設置する場合と、実際の保全対象である平取ダム建設予定地内が考えられ、将来的には、例えば、半栽培等の管理方法を取り入れながら、ダム建設予定地において自生植物の循環的利用につなげていくことが考えられる。

- 具体的対象については、保全モデル地区の現状植生を把握したうえで、増殖目的（量的増大）の際の「代表的植物リスト」に対して不足する当該植物を栽培実験の優先的な対象としてとらえることとし、「代表的植物リスト」の中で平成19年度までに栽培実験を実施していないものについて、保全対象種を検討する際に考慮することとする。

[栽培技術蓄積のための留意点等]

○これまでの栽培試験

時 期	地 区	面 積	対 象 種
平成 15 年～	二風谷地区	約 200m ²	オヒョウ、ミズキ、コケイラン、ユキザサ等
平成 19 年～	芽生地区	約 280m ²	イヌエンジュ、イタヤ類 等

○栽培技術蓄積のための留意点

- ・ 土壌・日当たり・傾斜等の植物の生育条件
- ・ 種の管理、播種・実生植え付け、孫生移植等実施の季節や方法
- ・ 半栽培等に関わる刈払い、枝下ろし等の管理方法
- ・ 上記に応じた観察記録の作成 など

○想定スケジュール（木本の場合）

年数の目安／場所	1 年後	2 年後	3 年後	4～5 年後	5～10 年後	10～20 年後
山林等	種採取					
育苗圃	植付（秋）	育成	育成			
ダム事業用地 等 （保全モデル地区）				移植	育成管理 （半栽培）	材料採取

栽培実験期間